

# 四半期報告書

(第48期第2四半期)

株式会社 エージーピー

(E04366)

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	20

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年11月14日

**【四半期会計期間】** 第48期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

**【会社名】** 株式会社エージーピー

**【英訳名】** AGP CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 杉 本 学

**【本店の所在の場所】** 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号

**【電話番号】** 03-3747-1631

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 関 谷 岳 久

**【最寄りの連絡場所】** 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号

**【電話番号】** 03-3747-1631

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 関 谷 岳 久

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期 連結累計期間	第48期 第2四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (千円)	4,938,793	5,080,619	10,091,212
経常利益 (千円)	137,962	308,915	375,255
四半期(当期)純利益 (千円)	70,215	96,866	119,639
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	69,486	86,936	119,963
純資産額 (千円)	5,701,921	5,741,698	5,752,399
総資産額 (千円)	11,625,207	11,289,477	11,583,960
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	5.03	6.94	8.58
自己資本比率 (%)	49.0	50.9	49.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	676,399	684,764	1,326,915
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△153,953	△111,776	△204,738
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△441,075	△492,060	△651,601
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,635,195	3,105,328	3,024,401

回次	第47期 第2四半期 連結会計期間	第48期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.87	2.17

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（以下「当四半期」という）におけるわが国経済は、復興関連需要などにより底堅く推移しているものの、欧州や中国等の対外経済環境を巡る不確実性は高く、景気が下押しされるリスクが存在しております。

一方、航空業界では、航空各社による増便や路線の開設など拡大基調にあるものの、中国との外交関係の悪化とともに予断を許さない状況となっております。また、本年就航した本邦LCC3社は順調に需要を取り込んで存在感を増しており、今後、既存航空会社との競争がさらに激化するものと思われれます。

このような状況下、当四半期の売上高は、50億80百万円と前年同四半期比1億41百万円（2.9%）の増収となりました。

営業利益は3億34百万円と前年同四半期比1億72百万円（106.3%）の増益、経常利益は3億8百万円と前年同四半期比1億70百万円（123.9%）の増益となりました。

これに、鹿児島、熊本、長崎各空港出張所閉鎖に伴う特別損失として、設備撤去等にかかわる事業撤退損を1億28百万円計上したことにより、四半期純利益は96百万円と前年同四半期比26百万円（38.0%）の増益にとどまりました。

#### ・動力事業

航空需要の回復に伴う増便や路線の開設、A380型機やB787型機の就航などにより、成田空港をはじめとする国際線で比較的堅調に推移し、売上高は、26億31百万円と前年同四半期比1億54百万円（6.2%）の増収となりました。セグメント利益（配賦不能営業費用控除前）は、3億4百万円と前年同四半期比1億76百万円（138.2%）の増益となりました。

#### ・整備事業

前年同四半期に空港外施設で大型別件工事があった反動、成田空港における空港関連施設の保守管理基本契約ならびに更新・修繕作業の減等により、売上高は、18億36百万円と前年同四半期比1億26百万円（6.4%）の減収となりました。セグメント利益（配賦不能営業費用控除前）は、1億97百万円と前年同四半期比37百万円（15.9%）の減益となりました。

・付帯事業

フードカート販売の増等により、売上高は、6億13百万円と前年同四半期比1億13百万円(22.7%)の増収となりました。セグメント利益(配賦不能営業費用控除前)は、1億40百万円と前年同四半期比28百万円(26.0%)の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度(以下「前期」という)末に比べ2億94百万円(2.5%)減少して112億89百万円となりました。

流動資産では、前期末に比べて84百万円(1.6%)増加の52億65百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が1億84百万円減少し、仕掛品が1億9百万円、現金及び預金が80百万円、前払費用等その他が55百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産では、前期末比3億78百万円(5.9%)減少の60億24百万円となりました。これは、主に有形固定資産が4億40百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前期末に比べて2億83百万円(4.9%)減少して、55億47百万円となりました。

このうち流動負債では前期末に比べて40百万円(2.3%)増加の18億52百万円となりました。主な要因は、営業未払金が52百万円減少し、未払法人税等が89百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債では、前期末比3億24百万円(8.1%)減少の36億95百万円となりました。これは、主に長期借入金が3億11百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前期末に比べて10百万円(0.2%)減少して57億41百万円となりました。これは、当四半期純利益および剰余金の配当の加減算ならびにその他有価証券評価差額金により10百万円減少したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間(以下「当四半期」という)における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前年同四半期連結累計期間(以下「前年同四半期」という)に比べ4億70百万円(17.8%)増加し、31億5百万円となりました。

当四半期および前年同四半期に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期に比べ8百万円(1.2%)増加して6億84百万円となりました。当四半期の資金増加の主なものは、税金等調整前四半期純利益1億75百万円、減価償却費4億35百万円、売上債権の減少1億84百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前年同四半期に比べ42百万円(27.4%)減少して1億11百万円となりました。当四半期の資金減少の主なものは、有形固定資産の取得による支出75百万円、投資有価証券の取得による支出37百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、前年同四半期に比べ50百万円(11.6%)増加して4億92百万円となりました。当四半期の資金減少の主なものは、長期借入金の返済による支出3億41百万円、配当金の支払額97百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、3百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	52,000,000
計	52,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,950,000	13,950,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株 であります。
計	13,950,000	13,950,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日	—	13,950,000	—	2,038,750	—	114,700

## (6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本航空株式会社	東京都品川区東品川二丁目4-11	4,651	33.34
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目3-1	3,740	26.81
全日本空輸株式会社	東京都港区東新橋一丁目5-2	2,793	20.02
エージーピー社員持株会	東京都大田区羽田空港一丁目7-1	584	4.18
森田 成一	東京都目黒区	93	0.66
栗原工業株式会社	大阪府大阪市北区角田町1-1	86	0.61
高橋 知子	宮城県仙台市若林区	72	0.51
城 暎男	徳島県海部郡	70	0.50
山田 邦洋	東京都渋谷区	66	0.47
塩川 美行	千葉県船橋市	51	0.36
玉井 益一	愛媛県伊予市	51	0.36
計	—	12,257	87.86

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,947,000	13,947	—
単元未満株式	普通株式 2,000	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	13,950,000	—	—
総株主の議決権	—	13,947	—

(注) 「単元未満株式」には当社所有の自己株式857株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エージーピー	東京都大田区羽田空港 一丁目7-1	1,000	—	1,000	0.0
計	—	1,000	—	1,000	0.0

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,133,621	2,214,261
受取手形及び売掛金	1,527,996	1,343,106
有価証券	890,779	891,067
商品及び製品	72,624	61,823
仕掛品	14,109	123,568
原材料及び貯蔵品	275,665	309,930
その他	266,586	321,676
流動資産合計	5,181,383	5,265,432
固定資産		
有形固定資産		
構築物	8,655,278	8,515,839
減価償却累計額	△6,581,605	△6,704,107
構築物（純額）	2,073,673	1,811,732
機械及び装置	7,888,852	7,887,877
減価償却累計額	△6,082,265	△6,203,789
機械及び装置（純額）	1,806,587	1,684,088
その他	1,932,930	1,935,729
減価償却累計額	△1,176,658	△1,245,675
その他（純額）	756,272	690,053
土地	110,608	110,608
建設仮勘定	458,032	468,193
有形固定資産合計	5,205,173	4,764,675
無形固定資産		
その他	51,422	43,707
無形固定資産合計	51,422	43,707
投資その他の資産		
その他	1,152,581	1,222,261
貸倒引当金	△6,600	△6,600
投資その他の資産合計	1,145,981	1,215,661
固定資産合計	6,402,576	6,024,044
資産合計	11,583,960	11,289,477

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	466,378	413,954
未払法人税等	82,053	171,779
資産除去債務	—	29,516
その他	1,263,491	1,237,467
流動負債合計	1,811,923	1,852,717
固定負債		
長期借入金	2,307,700	1,996,175
退職給付引当金	1,457,125	1,494,831
資産除去債務	32,152	32,328
その他	222,659	171,725
固定負債合計	4,019,637	3,695,060
負債合計	5,831,560	5,547,778
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,038,750	2,038,750
資本剰余金	114,700	114,700
利益剰余金	3,598,943	3,598,172
自己株式	△630	△630
株主資本合計	5,751,762	5,750,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	636	△9,293
その他の包括利益累計額合計	636	△9,293
純資産合計	5,752,399	5,741,698
負債純資産合計	11,583,960	11,289,477

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,938,793	5,080,619
売上原価	4,404,099	4,379,599
売上総利益	534,693	701,019
販売費及び一般管理費	※1 372,409	※1 366,305
営業利益	162,284	334,714
営業外収益		
受取利息	1,830	638
受取配当金	534	769
保険配当金	179	901
保険事務手数料	704	698
その他	2,521	257
営業外収益合計	5,770	3,265
営業外費用		
支払利息	29,612	26,775
その他	480	2,289
営業外費用合計	30,092	29,064
経常利益	137,962	308,915
特別損失		
固定資産除却損	35	4,914
事業撤退損	—	※2 128,018
貸倒引当金繰入額	2,825	—
特別損失合計	2,860	132,933
税金等調整前四半期純利益	135,102	175,981
法人税、住民税及び事業税	67,630	162,660
法人税等調整額	△2,744	△83,545
法人税等合計	64,886	79,115
少数株主損益調整前四半期純利益	70,215	96,866
四半期純利益	70,215	96,866

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	70,215	96,866
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△728	△9,929
その他の包括利益合計	△728	△9,929
四半期包括利益	69,486	86,936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	69,486	86,936



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	135,102	175,981
減価償却費	486,148	435,854
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	69,035	57,895
固定資産除却損	35	4,914
事業撤退損失	—	128,018
受取利息及び受取配当金	△2,364	△1,408
支払利息	29,612	26,775
売上債権の増減額 (△は増加)	110,236	184,890
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△85,797	△134,756
仕入債務の増減額 (△は減少)	28,062	△52,423
未収消費税等の増減額 (△は増加)	62,199	—
未払消費税等の増減額 (△は減少)	23,496	△51,746
その他	△62,717	16,479
小計	793,049	790,475
利息及び配当金の受取額	2,364	1,408
利息の支払額	△29,936	△33,200
法人税等の支払額	△89,078	△73,918
営業活動によるキャッシュ・フロー	676,399	684,764
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	—	△37,900
有形固定資産の取得による支出	△176,034	△75,723
無形固定資産の取得による支出	—	△1,454
敷金及び保証金の差入による支出	△1,831	△2,819
敷金及び保証金の回収による収入	27,541	7,589
その他	△3,628	△1,469
投資活動によるキャッシュ・フロー	△153,953	△111,776
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△264,514	△341,525
リース債務の返済による支出	△51,116	△52,921
配当金の支払額	△125,444	△97,613
財務活動によるキャッシュ・フロー	△441,075	△492,060
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	81,369	80,927
現金及び現金同等物の期首残高	2,553,825	3,024,401
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 2,635,195	* 3,105,328

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
役員報酬	79,029千円	74,533千円
給与手当	88,528 "	87,833 "

※2 事業撤退損

事業撤退損128,018千円の内訳は、鹿児島空港、熊本空港、長崎空港の事業場の閉鎖に伴う有形固定資産の減損損失96,426千円、その他閉鎖に伴う費用31,592千円であります。

(減損損失)

第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)において当社グループは、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	その他
処分予定資産	構築物・機械装置	鹿児島空港内 熊本空港内 長崎空港内	旅客搭乗橋懸架式電力供給設備

当社グループは、事業用資産については事業セグメントを基礎としてグルーピングを行っております。

当第2四半期連結会計期間において3空港内の事業場の閉鎖が確定したため、該当資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減損損失96,426千円は特別損失「事業撤退損」に含めて表示しております。

減損損失の内訳は、構築物93,409千円、機械装置3,017千円であります。なお、処分予定資産の回収可能価額は、使用価値により測定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金	2,244,639千円	2,214,261千円
有価証券	390,556 "	891,067 "
現金及び現金同等物	2,635,195千円	3,105,328千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	125,533	9	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月19日 定時株主総会	普通株式	97,637	7	平成24年3月31日	平成24年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	動力事業	整備事業	付帯事業	
売上高				
外部顧客への売上高	2,476,414	1,962,935	499,443	4,938,793
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	2,470	2,470
計	2,476,414	1,962,935	501,913	4,941,263
セグメント利益	127,834	234,610	111,415	473,861

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	473,861
全社費用(注)	△311,576
四半期連結損益計算書の営業利益	162,284

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	動力事業	整備事業	付帯事業	
売上高				
外部顧客への売上高	2,631,098	1,836,506	613,014	5,080,619
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	2,388	2,388
計	2,631,098	1,836,506	615,402	5,083,007
セグメント利益	304,505	197,361	140,392	642,259

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額  
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	642,259
全社費用(注)	△307,545
四半期連結損益計算書の営業利益	334,714

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	動力事業	整備事業	付帯事業	
減損損失	96,426	—	—	96,426

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円03銭	6円94銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	70,215	96,866
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	70,215	96,866
普通株式の期中平均株式数(千株)	13,948	13,948

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月14日

株式会社エージーピー

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上 林 三 子 雄 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 英 志 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加 藤 敦 貞 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エージーピーの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エージーピー及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。



**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の8第1項
<b>【提出先】</b>	関東財務局長
<b>【提出日】</b>	平成24年11月14日
<b>【会社名】</b>	株式会社エージーピー
<b>【英訳名】</b>	AGP CORPORATION
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 杉 本 学
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	該当事項はありません。
<b>【本店の所在の場所】</b>	東京都大田区羽田空港一丁目7番1号
<b>【縦覧に供する場所】</b>	株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長杉本学は、当社の第48期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。